

# 東南アジア文化事典

A5判・826頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-30390-0



編集委員長 信田敏宏 編集委員 綾部真雄・岩井美佐紀・加藤剛・土佐桂子 編集協力者 小川忠・福岡正太

- 自然、歴史、民族、言語、宗教などの基本情報から生業、ジェンダーなど生活文化を解説
- 非常に魅力的で多様な食文化、文化遺産、伝統芸能、ポップカルチャーなども一挙に紹介
- 日本との交流にも重きを置き、ロングステイや在日フィリピン人・ベトナム人なども解説
- 執筆者は200名以上、1項目2pを基本とし、どこからでも読める構成

## 好評既刊 文化事典シリーズ



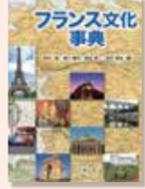
### スペイン文化事典

川成洋・坂東省次 編  
セルバンテス文化センター東京 編集協力  
A5判・922頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-08300-0



### イタリア文化事典

日伊協会 監修 イタリア文化事典編集委員会 編  
西本晃二 編集委員長 英正道 編集幹事  
A5判・934頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-08429-8



### フランス文化事典

田村毅・塩川徹也・西本晃二・鈴木雅生 編  
A5判・798頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-08522-6



### イギリス文化事典

イギリス文化事典編集委員会 編  
川成洋 編集委員長  
A5判・946頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-08864-7



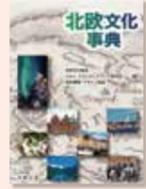
### 日本文化事典

神崎宣武・白幡洋三郎・井上章一 編  
A5判・814頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-08979-8



### 中国文化事典

中国文化事典編集委員会 編  
竹田晃 編集委員長 大木康 編集幹事  
A5判・808頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-30117-3



### 北欧文化事典

北欧文化協会・バルト スカンディナヴィア研究会  
北欧建築・デザイン協会 編  
A5判・696頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-30171-5



### アメリカ文化事典

アメリカ学会 編  
松本悠子 編集委員長  
A5判・958頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-30214-9



### インド文化事典

インド文化事典編集委員会 編  
杉本良男 編集委員長  
A5判・806頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-30235-4



### ロシア文化事典

沼野充義・望月哲男・池田嘉郎 編集代表  
A5判・890頁 予価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-3-621-30413-6

10月刊行予定



丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル 書籍営業部  
TEL (03)3512-3256 FAX (03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

丸善出版：発行 FAX (03) 3512-3270

東南アジア文化事典

ISBN 978-4-621-30390-0  
定価(本体20,000円+税)

冊

冊

お名前

ご住所 〒

TEL

取扱店

注文書

※ご注文いただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。

Tom.19.A0

2019年10月 刊行予定  
丸善創業150周年記念出版

最新情報・詳細はこちら ▶▶  
丸善出版ホームページ



# 東南アジア文化事典

A5判・826頁 定価(本体20,000円+税)  
ISBN 978-4-621-30390-0

## 編集委員長

信田 敏宏 (国立民族学博物館教授)

## 編集委員

綾部 真雄 (首都大学東京教授)

岩井 美佐紀 (神田外語大学教授)

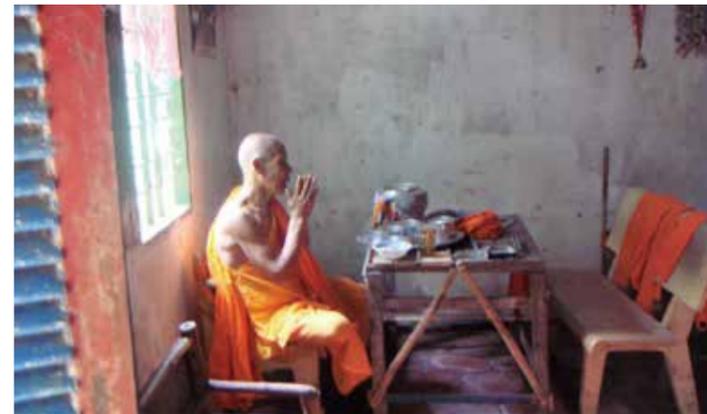
加藤 剛 (京都大学名誉教授)

土佐 桂子 (東京外国語大学教授)

## 編集協力者

小川 忠 (跡見学園女子大学教授)

福岡 正太 (国立民族学博物館准教授)



丸善出版

# 刊行にあたって

東南アジアは、過去から現在まで、孤立することなく外の世界と絶えず交流を続けてきた。そこに暮らす人びとは、連綿と続く壮大な文化交流の営みの中で、借用や模倣、あるいは融合や再構築などの試みを通して、やがては自らのアイデンティティの拠り所となる文化を創造してきたのである。

中国やインドと陸続きである大陸部東南アジアでは、昔から新天地を求めて民族の移動が繰り返され、特に、北部の山岳地帯には、中国の動乱や圧制から逃れてきたさまざまな民族による独自の世界が形成された。多島海が広がる島嶼部では、東西世界を結ぶ海のシルクロードの中継点として、古来よりさまざまな出自を持つ人びとが行き来していた。このように、起源を異にする民族が東南アジアにやってきたことは、必然的に、多様な文化が東南アジアにもたらされる大きな要因となった。

本事典は3部構成となる。「Ⅰ 東南アジアとは」では、東南アジア理解に必須の事項が分かりやすく解説され、「Ⅱ 東南アジアの社会と文化の諸相」では、東南アジアの文化を深く理解するための項目がテーマごとに並べられている。また、「Ⅲ 日本と東南アジアの社会文化交流」では、東南アジアをより身近に感じてもらえればとの思いから、過去から現在までの日本と東南アジアの文化的な交流を扱っており、最終章は本事典の中でも特に興味深い章である。

各項目は具体的な事例を盛り込んだ分かりやすい解説になっており、研究者ならびに学生や一般の方々にも活用いただければ幸いである。異文化理解、他文化理解がますます必要とされるグローバル化の時代において、本事典が東南アジアの人びとに対するより良き理解の一助となることを願っている。

編集委員長 **信田 敏宏**



# Contents

## I. 東南アジアとは

### 第1章 東南アジアの概観

「東南アジア」概念の形成／東南アジア世界の特徴／東南アジアを取り巻く世界／東南アジアの生態区分／山地と平地／デルタの世界／海域世界／大陸部東南アジア／ベトナム／カンボジア／ラオス／タイ／ミャンマー／島嶼部東南アジア／マレーシア／シンガポール／インドネシア／ブルネイ／東ティモール／フィリピン／世界の中の東南アジア

### 第2章 東南アジア世界の形成と変容

東南アジアの自然と風土／季節のリズム／熱帯多雨林の世界／熱帯の森林産物と商品作物／東南アジアの海と島／ウォーレス線の区切る世界／先史時代の人の移動／考古学からみた東南アジア／インド化／王権と仏教／海のシルクロード／イスラームの到来／大航海時代／「商業の時代」の東南アジア／植民地化の波／「複合社会」の形成／19世紀と現代東南アジアの枠組み／ナショナリズムの諸相／冷戦構造の中で／東南アジアと開発／村の世界／都市の世界／グローバル化の時代へ／21世紀の東南アジア

## 第5章 宗教と世界観

東南アジアの宗教／上座仏教（上座部仏教）／イスラーム／キリスト教／フォークカトリシズム／華人系宗教／新興宗教／ヒンドゥー教／精霊信仰／仏教と国家／寺院と出家／寺院と教育／イスラームと国家／モスクと礼拝所／ポンドック・プサントレンと教育／ハラール／声の文化と宗教／民間療法／呪術／宗教の共生／宗教と災害／宗教とソーシャル・キャピタル／水かけ祭り／断食明け大祭と犠牲祭



## II. 東南アジアの社会と文化の諸相

### 第6章 生業（なりわい）

狩猟／採集／焼畑／稲作／漁撈／水産業／家畜／プランテーション／アブラヤシ栽培／チャ栽培／ケシ栽培／パティック／染織／竹細工／土器／インフォーマル経済／家事労働／ジャム売り／物乞い／廃品回収業／やくざ／売買春・男娼／出稼ぎ

### 第7章 社会に暮らす

双系制の親族関係／父系制の親族関係／母系制の親族関係／ベトナムの家族／カンボジアの家族／ラオスの家族／タイの家族／ミャンマーの家族／マレーシアの家族／シンガポールの家族／インドネシアの家族／フィリピンの家族／近代家族法／家族政策／高齢化問題／通過儀礼／葬式・お墓事情／普段着と晴れ着／台所と調理道具・食器／家屋・調度品／トイレ事情／庶民の足／村の共有資源管理／頼母子講／都市中間層・富裕層の暮らし／都市の集合住宅／都市スラムの暮らし



### 第8章 食文化

東南アジアの食文化／ベトナムの食／カンボジアの食／ラオスの食／タイの食／ミャンマーの食／マレーシアの食／シンガポールの食／インドネシアの食／フィリピンの食／ハラール食／ニュージャ料理／バダン料理／ゲテモノ／米／麺類／香辛料／共食／肉食／魚食／菜食／イモとバナナ／保存食／ナマコ／フルーツ／酒／ピンロウ／タバコ／コーヒー／喫茶文化／屋台／食と健康



### 第9章 芸術・芸能・娯楽

伝統音楽／楽器／ゴング／掛け合歌／ポピュラー音楽／ロック、ポップス／伝統舞踊／コンテンポラリーダンス／東南アジア芸能における女形／仮面芸能／影絵芝居／人形劇／映画／B級映画／テレビドラマ／彫刻／絵画／工芸／衣服／現代アート／バリ島の近代絵画／古典文学／現代文学／ポピュラー小説／移動劇団／大衆芸能／現代演劇／音楽芸能の断絶と復興／華人の音楽芸能／東南アジアにおけるインドの音楽・芸能／賭け事・娯楽／格闘技／セバタクロー／闘鶏／子供の遊び

## 第10章 ジェンダー・セクシュアリティ

東南アジアの男女観／女性と政治／女性の高学歴化／フェミニズム運動／カルティニ／アウンサンスーチー／戦争とジェンダー／国家とジェンダー／民主化とLGBT／セクシュアリティの多様性／女性と経済／セックスワーカー／ジェンダーと開発／親密圏とケア／移民・ジェンダー・市民権／女性労働／看護師・介護福祉士／ディアスポラ／ジャバゆき／儒教とジェンダー／仏教とジェンダー／イスラームとジェンダー／ムスリムファッション／一夫多妻制／婚資



### 第11章 観光と文化遺産

東南アジアと観光／インバウンド観光とASEAN意識／グリーンツーリズム／メディカルツーリズム／コミュニティ・ベースド・ツーリズム／NGOのスタディーツアー／リゾート開発／LCCの成長／観光都市バンコク／OTOP（一村一品運動）／バリのヒンドゥー哲学（トリ・ヒタ・カラナ）／世界遺産の政治学／東南アジアの無形文化遺産／文化復興／ハロン湾／ハノイのタンロン遺跡／フェの建造物群／アンコール遺跡／プレアヴィヒア寺院／ルアンパバーン／スコタイと関連の歴史上の町／アユタヤの歴史上の町／バガンとピュー古代都市群／マラッカ海峡の歴史的都市群／キナバル自然公園／シンガポール植物園 - シンガポールまちづくりの聖地／スマトラ熱帯雨林／ボロブドゥール遺跡群／バリ州の文化的景観／スルタン・オマル・アリ・サイフィン・モスク／フィリピン・コルディエーラの棚田群／フィリピンのバロック様式教会群



### 第12章 新しい時代の流れ

ASEAN共同体／SEA Games／イスラーム世界の中の東南アジア／域内移民・出稼ぎ／SNSが拓く世界／東南アジアにおける中国のプレゼンスの増大／春節の祝い／超大型ショッピングセンターと生活文化／変わりゆく国民文化／NGO／フェアトレード・コーヒー／ショップハウス文化／鉄道網の広がり／肥満化／ベトナムにおける社会主義の現在／戦争顕彰モニュメント - 英雄的ベトナムの母／インフラストラクチャー・フェスティズム／プリラム・ユナイテッド／呪術的思考／アピチャッポン・ウィーラセタクン／イスカンダル開発計画／マリーナベイサンズ／シングリッシュ／JKT48／フィリピン大統領／フィリピン・ホスピタリティ／バレンタインデー／政治風刺とラップ／テロリズム

## III. 日本と東南アジアの社会文化交流

### 第13章 東南アジアの中の日本／日本の中の東南アジア

戦国・江戸期の交流／明治から戦前までの交流／日本軍政の文化政策／教科書が映す戦時中の日本・東南アジア関係／戦後から田中反日暴動までの交流／交流の多面的拡大と深化／新しい交流の模索 - 東日本大震災をへて／日本人コミュニティの今昔／日本人学校／東南アジアで働くこと／現地邦字紙が伝えるニュース／東南アジアの日本語教育／東南アジアの日本研究／翻訳された日本文学／日本映画・テレビ（コンテンツ）／アニメ・マンガ／J-Pops／ファッション／日本祭りとその拡散／ローカライズされる日本食／ロングステイ／日本に暮らす東南アジア出身者／在日フィリピン人／在日ベトナム人／在日ミャンマー人社会の変容／在日インドネシア人／難民と二世、三世／外国人技能実習生／急増する東南アジアからの観光客／日本のタイ寺院／日本のモスク／東南アジア文学の翻訳／日本で見られる東南アジア美術／日本で上映された東南アジア映画／日本で紹介された東南アジアの音楽／日本社会に溶け込んだ東南アジアの食／東南アジア言語の学習